

① 授業の基本情報（学部・学科、科目名、配当年次、履修者数、オンライン授業形態）

外国語学部英語コミュニケーション学科

「国際協力コース概論」1年次配当

履修者数：39人（4年生：2人、3年生：5人、2年生：11人、1年生：21人）

オンライン授業形態：オンデマンド

② 教員の基本情報（氏名、所属）

甲斐田きよみ 外国語学部

③ （可能なら）学生のコメント（最後の授業回での講義全体への感想より）

「全体的に説明がわかりやすく、PPTを見返しながら復習することができたため、授業で学んだことが知識としてより身についたと思う。また実際に動画を観ることで、援助がどのようなものなのかをイメージしやすかった。この授業を通して、様々な分野に興味を持つことができ、開発経済学や農村開発論の授業も履修したいと思った。（3年生）」

「記述式が多く、自分で調べ考える時間が多く様々な世界で起きている課題について考える機会が多かったと思う。私は国際協力に興味を持っているが具体的に何が出来るのかを授業で知ることが出来、とても良い学びになったと思う。また、世界では人間とは思えないような事件、差別があり、その差別がすべての発展途上国の人々の生活に関わっているという事を知った時には、とても衝撃を受けた。すべては個別の課題だと思っていたが、すべては繋がっているのならば、人々の権利がきちんと保障されるように国際協力をすれば、すべてが解決されるという希望も見れた。しかし今は世界で起きている悲しい現実にも目を受け、受け入れどのような協力をすれば人々が自立して幸せな地域にするにはどうしていくのかを考えられるのは私達だと思った。（2年生）」

「この授業を受けたことで国際協力に興味を持ちました。大学に入学してオンラインという環境でしたが国際協力についてとても分かりやすくとても勉強になりました。一年生でまだゼミについてよくわかりませんが国際協力があることは知っていました。なので興味本位に授業をとってみましたが、とても興味深い内容でした。他国の現状について詳しく知る事ができました。（1年生）」

「各授業ごとの前半で前回やった内容などの復習のように紹介してくれるのでなんとなくですがこんなのやったなって思いだしてからできるので今回は何を学ぶのかなど思ったり感じたりしてます。私は国際協力の授業で聞いたことはあるが知らないことが多いのでたくさんの新しいことを学びます。この授業を取ってから自分には何かできることはないのだろうかとも思うようになりました。今は何かできることを見つけてす

ぐに取り組むことは難しいかもしれませんが、将来少しでも私にできることがあるのならやりたいと思いました。(1年生)」

④ 授業をオンライン化するにあたって心がけたこと (工夫点、苦労)

- 対面授業ではワークシートを使用し、講義での説明や動画に関する理解を深める質問をしていたが、オンデマンドでは Forms を使用して同様の質問を取り入れた。学生はオンデマンド講義や動画を視聴し、その理解を確認する質問に回答していく。
- 次回の授業冒頭で、学生の回答を紹介するようにした。対面授業ではクラスで発表し学生同士のディスカッションにつなげていたので、できるだけ再現できるようにした。
- 講義の途中で 10 分～15 分の動画の視聴や、学生の作業 (質問への回答) を取り入れ、また 90 分授業を 15 分～20 分の動画 3 つに分けることで、学生が集中力を欠かさないようにした。
- 録音の際は必ずマイクを使用し、聞き取りやすい声とスピードで説明するよう心がけた。
- 「国際協力コース概論」ではないが、対面授業でグループ発表を行っている授業では、オンデマンドで再現できるよう、学生をグループに分け、グループごとにチャンネルを作成し、グループ内で発表に向けたオンライン会議やファイルの共有ができるようにした。またグループ発表は学生が P P T に音声を入れて作成したものを、オンデマンド授業で視聴し、各発表にコメントをし、次回の授業で学生のコメントと教員のコメントを紹介した。
- 動画の視聴期間および forms の提出期間を 2 日間に限定し、学生が本来の授業時間に視聴することを促し、学習習慣を崩さないように配慮した。

⑤ 今後のオンライン授業に向けて

- オンデマンド資料を録音する際に、ポインターを動かしながら線や記号を挿入したり、文字を追記しながら説明することを取り入れると、よりライブ感のあるオンデマンド講義資料となると思う。オンデマンド資料をもう少しライブ感のある物にできるよう工夫したい。